

# 一般社団法人日本活断層学会『活断層研究』執筆要領

2020 年4 月18 日改定

## 1. 原稿の内容

投稿原稿は原則として学術誌等に未発表で、かつ著作権法に抵触しないものとする。

学術誌等とは、学協会、教育・研究機関発行の論文誌、紀要を指す。学協会、教育・研究機関・委託元機関等が発行するニューズレター、事業報告的性格の強い報告書やホームページは学術誌等に該当しない。ただし、これらと全く同一の表現ではないことを求める。

## 2. 原稿の作成

- 2.1 原稿作成に当たってはワードプロセッサを使用し、A4 版用紙に割り付けたPDF ファイルを作成する。書き方と体裁は以下の要領にしたがう。
- 2.2 原稿は1 ページあたり23 行、1 行あたり全角26 字とし、査読意見が書き込めるように上下・右側の余白を大きくとる。また、左側に行番号を、下部にページ番号を記入する。（左マージン30 mm、上マージン25 mm、下マージン25 mm で、右マージンは査読コメント記入用に80 mm を目安とする）
- 2.3 原稿は、表題、本文（および付記等）、注、文献表の順に分けて書く。表題には、論文の題目（和文・英文）、著者名（和文・英文）、所属機関名（和文・英文）、キーワード（5 つ前後、和文・英文）を記載する。
- 2.4 論説・総説・短報・資料については、200 ～ 400 語程度の英文要旨を本文の前に付ける。
- 2.5 句読点は「.」（ピリオド）と「,」（コンマ）を使用する。数値やアルファベットは半角文字を使用する。カッコは全角でも半角でも構わないが、半角カッコの場合には日本語との間に半角スペースを入れると読みやすくなる。
- 2.6 章、節、項のタイトルはすべてゴシック体とする。章タイトルはその前に1, 2 ……のように番号を付し、前後は1行空けてセンタリングする。節は1.1, 1.2 ……、項は1), 2) ……のようにタイトルの前に番号を表記する。
- 2.7 特殊な字体（イタリック、ボールド、ギリシャ文字など）は明瞭に区別できるようにする。
- 2.8 人名や術語等の特別なものを除き、常用漢字および新かなづかいを使用する。
- 2.9 年号は原則として西暦を使用し、元号が必要な場合は（ ）に入れて記す。  
【例】1990（平成2）年
- 2.10 年号等を除き、4ケタ以上の整理には3ケタ区切りのカンマ（,）を入れる。
- 2.11 地名などの漢字で読み誤るおそれのあるものには、ふりがなをつける。
- 2.12 数量の単位は国際単位系（SI単位）を用いる（例：m, kg, m/s, Hz, °C）。その他の略

号については慣例に従う(例：14C, 年BP, yrs BP, cal BP, Ma, ka, ca., etc.).

### 3. 注と文献の引用

3.1 注は, 本文中の該当箇所の右肩に1), 2) のように番号を付して列記し, 本文中の一連番号と対照できるようにする.

3.2 文献は, 本文中で引用する場合は, 下記のようにあらわす.

#### 【引用の例】

・引用文献の著者が1人の場合

【例】……である(松岡, 1981) .

松岡(1981, p. 40)によれば……

……といわれる(松岡, 1981, pp. 102-103) .

これらの研究(松岡, 1981 ; Matsuyama, 1963, 1965a, b)によると……

・引用文献の著者が2人の場合

【例】松岡・松山(1981)は……

Sugita and Matsuyama (1982) は……

・引用文献の著者が3人以上の場合

【例】松岡ほか(1981)は……

Matsuyama et al. (1991) によると……

・文章等を直接引用する場合

【例】この点は「……である」(松岡, 2001, p. 40) .

田中(2008)は, 「……と言える」(p. 135)と述べている.

### 4. 文献表

4.1 文献表においては, 著者名, 発表西暦年, 表題, 雑誌名, 巻, (号), 頁の順に下記の例のように書く.

4.2 著者名のアルファベット順, 同一著者のものは年代順に並べる.

4.3 著者(編者や訳者等を含む)が複数の場合も, 省略せずに全著者名を記す.

4.4 同一著者による複数の文献が連続する場合も, 文献ごとに著者名を省略せずに記す.

4.5 同一著者による同じ年に公表された異なる文献が複数引用される場合は, 各文献の公表年に続けて, 引用順に a, b, c ……と付記して区別する.

4.6 雑誌名は省略しない.

4.7 巻号のある雑誌で, 巻ごとに通しページになっている場合は号数を省略する.

巻号のある雑誌でも号ごとにページが変わる場合は号数も記す. 巻は太字で, 号は平字で記す.

【文献表の記載例】

①日本語単行本の場合

著者名，西暦出版年，「書名」，出版者名，総ページ数p.

【例】活断層研究会編，1991，「新編日本の活断層—分布図と資料—」，東京大学出版会，437p.

②日本語編集書の一部の場合

著者名，西暦出版年，論文題目，編者名編「編集書名」，出版者名，掲載ページ.

【例】太田 裕，1994，断層と地震災害，島崎邦彦・松田時彦編「地震と断層」，東京大学出版会，210-233.

③日本語雑誌の一部の場合（巻のみで記載できる場合）

著者名，西暦刊行年，論文題目，雑誌名，巻数（太字体），掲載ページ.

【例】渡辺満久・中村優太・鈴木康弘，2015，能登半島南西岸変動地形と地震性隆起，地理学評論，88，235-250.

④日本語雑誌の一部の場合（号のみの場合）

著者名，西暦刊行年，論文題目，雑誌名，号数（平字体），掲載ページ.

【例】萩原幸男・糸田千鶴，2005，起震断層長のべき乗則分布モデル，活断層研究，25，1-7.

⑤日本語雑誌の一部の場合（巻の中で通し頁数が記されていない場合）

著者名，西暦刊行年，論文題目，雑誌名，巻数（太字体）（号数(平字体)），掲載ページ.

【例】望月秋利・片岡昌裕・阪口 理・寺下雅裕，1986，暴露試験と乾湿繰り返し試験による頁岩の風化速度の検討，土質工学会論文報告集，34（4），109-119.

⑥外国語単行本の場合

著者名，西暦出版年，書名（斜字体），出版者名，総ページ数p.

【例】Yeats, R. S., Sieh, K., and Allen, C. R., 1997, The Geology of Earthquakes, Oxford University Press, 568p.

⑦外国語編集書の一部の場合

著者名，西暦出版年，論文題目，in 編集書名（斜字体），編者名（editor），出版者名，掲載ページ.

【例】Obermeier, S. F., 1996, Using liquefaction-induced features for paleoseismic analysis, in Paleoseismology, J. P. McCalpin (editor), Academic Press, 331-396.

⑧外国語雑誌の一部の場合

著者名，西暦刊行年，論文題目，雑誌名（斜字体），巻数（太字体）・（号数(平字体)），掲載ページ等.

【例】 Furumura, T., and Kennett, B. L. N., 2001, Variations in regional phase propagation in the area around Japan, *Bulletin of the Seismological Society of America*, 91, (4), 667-682.

【例】 Okamura, Y., Ishiyama, T., and Yanagisawa, Y., 2007, Fault-related folds above the source fault of the 2004 mid-Niigata Prefecture earthquake, in a fold-and-thrust belt caused by basin inversion along the eastern margin of the Japan Sea, *Journal of Geophysical Research*, 112, B03S08, doi: 10.1029/2006JB004320.

#### ⑨ウェブサイトを引用する場合

著者名, 検索年, ページタイトル, URL (下線), 参照期日.

【例】 地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2007, 「全国を概観した地震動予測地図」 2007年版, [http://www.jishin.go.jp/main/chousa/07\\_yosokuchizu/index.htm](http://www.jishin.go.jp/main/chousa/07_yosokuchizu/index.htm), 2008年1月31日参照.

#### ⑩地図などを引用する場合

著者名, 西暦刊行年, 地図名等. 書誌情報

【例】 岡田篤正・池田安隆・中田 高・千田 昇・宇根 寛, 2000, 1:25,000都市圏活断層図「大分」, 国土地理院技術資料D-1-No. 375.

## 5. 図, 表, 写真

5.1 図・表・写真は, 本文とは別にA4 版用紙に割り付ける. 写真は, 図として扱う.

5.2 図・表・写真の刷り上がりは, 最大幅7.5cmか16.5cm (天地は, タイトル・説明を含み24cmが最大) の大きさになる. 印刷原稿作成の過程で拡大・縮小の必要なくそのままの大きさで印刷原稿となるように, 可能な限り最終原稿の印刷時の大きさのものでかつ鮮明なものを作成する.

5.3 図にはそれぞれ第1図, 第2図, Fig. 1, Fig. 2のように番号をつける. 表には, 表1, 表2, Table 1, Table 2のように番号を付ける.

5.4 図表のキャプション (タイトル・説明文) は別紙にまとめて書く. 日本語論文の場合でも, 日本語のほかに英語キャプションも必ずつける. 表のキャプションは, 表題のみとし, 表の内容の説明文は, 表の下に入れる.

5.5 本文右側の余白に図表の挿入希望位置を書き込むことが望ましい.

## 6. 投稿の方法

6.1 投稿は, PDFなどの電子原稿ファイルによるものとする.

6.2 初稿の投稿に当たっては, 学会規定の原稿送付状, 投稿チェックシートおよび原稿一

式(文章・図表・図表キャプションなど)を別々のファイルで活断層学会事務局 (danso@seis.nagoya-u.ac.jp)宛てに送付する。

- 6.3 原稿送付状には、原稿の種類、著者名、論文名、連絡責任者、原稿の内容別枚数等を明記する。
- 6.4 投稿チェックシートに沿って原稿を確認した上で、該当するすべての項目にチェックを入れる。
- 6.4 初稿では、図・表・写真の電子ファイルの解像度は、査読に支障がない範囲において、最終原稿より粗い200 dpi 程度のもので構わない。編集委員や査読者へ送りやすいよう、電子メールに添付できる程度のサイズ(数Mb以下)の1つのファイルにまとめる。
- 6.5 受理前の修正稿は、編集担当者に提出する。
- 6.6 受理後の最終原稿は、編集委員長に提出する。このとき、本文、図表キャプション、表などの文章類は、文字化けを防ぐために PDFではなく作成元のファイル形式(Word 及びExcel)とする。また、図面類は印刷時に情報が読み取ることができるように高解像度の画像ファイル(tiff, jpeg, png等)とする。

#### 附則

- 1 この要領は 2020 年 4 月 18 日から実施する。